

CONTENTS

	いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 58 宜野湾市立博物館(沖縄県).....16
	芸術文化の風 22 オーケストラと街がつくる地域文化 続編(西濱秀樹) ...17
	著作権Q & A 『著作権なるほど質問箱』から 22 組織・機関における著作物の利用～公民館など～.....18
	言葉と暮らし 10 方言関係図書館の都道府県別件数調査19
	伝建地区を見守る人々 伝建歳時記 34 伊根浦・倉家の正月(京都府与謝郡伊根町)20
	くらしが育む文化的景観 10 「手間講」が息づく棚田(佐賀県唐津市)22
連載	広げよう「文化力」の輪! 10 九州・沖縄から文化力 キーワードは「連携」24
	風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 34 ぶらり・のんびり・ゆらゆらり 港町・油津の発見25
	地域からの「文化力」発信 22 「本物の舞台芸術体験事業」を開催して26
	日本の伝統美と技を守る人々 重要無形文化財保持者編 7 魚住安彦(雅号 三代魚住為楽)(銅鑼)28
	国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 46 船の埴輪29
	祭り歳時記 伝承を支える人々 10 野沢温泉の道祖神祭り(長野県野沢温泉村)30
	文化交流使の活動報告 27 アジアのコンテンツ支援の確立を (源田悦夫・九州大学教授)31
	平成18年度[第10回] 文化庁メディア芸術祭32
	文化庁メディア芸術祭10周年企画展 日本の表現力36
	平成18年度文化庁長官表彰表彰者決定38
平成18年度文化庁日本語教育大会(九州大会).....39	
文化庁ニュース	国立国際美術館 企画展 ピカソの版画と陶芸40
	東京国立近代美術館 フィルムセンター 日本映画史横断② 歌謡・ミュージカル映画名作選41
	東京国立近代美術館 柳宗理 生活のなかのデザイン.....42
	東京国立博物館 マーオリ 楽園の神々43
	京都国立博物館 新春特集陳列 神像44
イベント案内	

文化庁提言	日本文化の発信と国際文化交流による世界平和の実現	秋葉正嗣	4
寄稿	さまざまな「未知との遭遇」	平野啓一郎	5
報告	文化庁第四回国際文化フォーラム	長官官房国際課	6
	日本音楽を日本人だけのものにしなさいこと	徳丸吉彦	10
	第四回国際文化フォーラムに参加して	サイモン・ケイナー	12
	国際文化フォーラムを開催して	奈良県企画部観光交流局文化国際課	14

今月の表紙	国際文化フォーラム・デモンストレーション
	【上】御座楽(国立劇場おきなわにて) 【下】韓国梵唄(和歌山県・高野山にて)

新国立劇場スポットライト	45
2月の国立劇場	46
芸術文化振興基金ニュース	47
題字デザイン 桑山弥三郎	

寄稿

たまたまごまな「未知との遭遇」

インターネット時代になって、海外の情報
の風通しは随分とよくなりました。私がまだ一
〇代だった頃には、学校で勉強する英語の実
用性は、大人になるまでなかなか実感できま
せんでしたが、今の中高生は、たとえば、自分
の好きな外国のミュージシャンのオフィシャ
ル・サイトを閲覧したり、情報を検索したり
する中で、昨日学校で覚えたばかりの英語の
構文を、実践的に、しかも喜びとともに学習
する経験を与えられていることでしょう。学ぶ
ということは、本来、そうあるべきで、いつ役
に立つのか分からないような勉強を渋々やっ
てみたところで、身につくはずがありません。

しかし、そうした一方で、ヨーロッパに行く
と、現地の若者たちが、また別の形でごく早
いうちから異文化に接しているのを目にするこ
とができます。

一つは、移民問題です。これは、まだまだ
大半の日本人にはピンと来ない話でしょうが、

「他国から来て、今自分たちとともに暮らして
いる人たち」の問題は、この国でも今後一層、
重要性を増していくことでしょう。

もう一つは、手軽な外国経験です。パリに
住んでいた頃、私は時々、「パリ・ローマ間片
道八ユーロ」というような、破壊的な低運賃
の航空会社の広告を目にしました。これは勿
論、特例的なもので、日程や予約時期に色々
な条件がついているのですが、それにしても、
EU内では、こうしたことがこの数年で急速
に現実となっているのです。パリで音楽の勉強
をしていた私の学生の友人も、こうしたフライ
トを利用し、インターネットで格安の宿を検
索して、ローマの小さなコンクールに出場した
りしていました。

格安航空会社として知られているのは、一
社だけではありません。ヨーロッパの若者たち
は、それらを利用して、一〇代の早い時期か
ら色々な国を旅行し、現地の人たちと交わっ

小説家

平野啓一郎



©八二一

ています。これは、インターネットを通じての
文化交流ではどうしても手の届かない、各々
の土地の魅力、あるいは現実を体感させてく
れることでしょう。その両方が、無理なく経験
できる環境にあるというのが、彼らの強みで
す。

日本の学生にとって、海外旅行は、まだこ
こまで手軽にはなっていないでしょう。環境
が、それを許すようになるのが勿論理想です
が、さもなくば、親や学校の理解も含め、早
いうちから意識的に異文化と接する機会を増
やすようにする必要がありますのではないでしょ
うか。

ひらの・けいいちろう

大学在学時より創作活動を始め、平成二十一年『日蝕』（新潮社、一九九八）にて第二二〇回芥川賞受賞。その後も精力的な活動を続け現在に至る。一六年には文化庁文化交流使として一年間パリに滞在し、講演等活動を行った。

◆特集◆

高松塚古墳壁画恒久保存の最前線

【施策紹介】

高松塚古墳の保存対策

国宝高松塚古墳壁画恒久保存方針

石室解体に向けて

【寄稿】

石室解体に向けた実驗

高松塚古墳に生息するカビ

墳丘調査で解明した事実 南海地震との関係

【論文】

高松塚古墳壁画の意義

【解説】

緊急保存対策(冷却効果の検証)

日本とイタリアの壁画交流

【事例紹介】

高松塚古墳壁画とラスコー壁画の関係

海外事情から

◆文化庁ニュース◆

文化ポランティア全国フォーラム

「親から子、子から孫へ」親子で歌いつづこう

日本の歌百選」の結果 ほか

◆連載◆

【いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート】
石川県能登島ガラス美術館

【芸術文化の風】

映画力の諸相 第三回文化庁映画週間

【著作権Q&A】著作権なるほど「質問箱」から
「こういう利用は許諾が必要? その1」

【言葉と暮らし】

「ことば」に関する新聞記事

【伝建地区を見守る人々 伝建歳時記】

「こみせ」が連なる津軽の商家町(青森県黒石市)

【くらしが育む文化的景観】

ヨシのささやき

【広げよう「文化力」の輪!】

オフィスワーカーが奏でる「文化」というもう一つの合唱

【風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み】

【地域からの「文化力」発信】

芸術拠点形成事業(展覧会事業等支援)

【日本の伝統美と技を守る人々】

中村幸雄(芸名 中村又五郎)・歌舞伎協役

【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】

絵から吹き寄せる風 国宝 松林図屏風

【祭り歳時記 伝承を支える人々】

六郷のカマクラ行事

【文化庁の星】

文化ポランティア専門官

編集後記

昨年一〇月二日から約一か月にわたり、第四回国際文化フォーラムを開催しました。関西・九州を中心に、さまざまなテーマでシンポジウムを行いました。どのテーマにおいても共通して意見が出されたのは「異なる文化を理解し、受容しよう」ということでした。

例えば、現在も伝承される伝統芸能や音楽などは日本の特性を有していますが、それは長い歴史の中で、他文化の影響を受け、現在のかたちに進化を遂げてきたといっても過言ではありません。いかなれば、歴史の中で異文化を受け入れ、自らの文化と融合させるということ

を行ってきたということ。このような異文化間の対話が、政治や宗教のイデオロギーの対立により、ときに困難なことになることもあり。しかし、現在、日本と各国との対話は、草の根から、また国の取組により進展しつつあります。今回のフォーラムで扱った美術、音楽、芸能などの分野でも、国という枠組みを超えて、互いが連携し合うこと、刺激し合うことで、新しい文化を生み出すことへの期待が寄せられました。本フォーラムの開催がその気運の高まりの一助となれば、と祈念してやみません。

(際)

文化庁月報 1月号 (通巻460)

平成19年1月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行—株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : http://www.gyosei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株) ぎょうせい 営業部 広告課

電話 03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

©2007 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、

- A 国立国際美術館
「ピカソの版画と陶芸」2組 (ペア)
- B 東京国立近代美術館
「柳宗理」2組 (ペア)
- C 東京国立博物館
「マーオリ」2組 (ペア)
- D 京都国立博物館
「神像」2組 (ペア)

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、1月26日(金)までにご投函ください(当日消印有効)。

*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp